

～協働ロボット向け製品の販路を拡充していきます～

産機事業部のねじ締めユニット「PD400UR」がユニバーサルロボット社の「UR+」製品認証を取得

当社ではユニバーサルロボット社の「UR+」製品認証を取得したねじ締めユニット「PD400UR」シリーズを発売開始します。8月30日の発売に先立ち、7月15日に共同記者会見を行いました。



オンラインでの記者会見。
ユニバーサルロボット社山根剛日本支社代表
(右)と当社執行役員桐村和也

デンマーク・オーデンセに本社をおくユニバーサルロボット社。

世界20ヶ国の拠点からグローバルに展開する協働ロボットのトップメーカで、同社が製造販売するURロボットとプラグ&プレイで使える周辺機器のプラットフォームが「UR+」です。ロボットアームの仕様やインターフェースがオープンにされていて、それらに準拠するエンドエフェクタ、カメラ、センサなどの周辺機器を各メーカーが開発していくというものです。スマートフォン本体とさまざまなアプリとの関係をイメージするとわかりやすいでしょう。

世界的有名企業の製品が「UR+」製品として認証されており（2021年3月現在で320以上）、今回、当社産機事業部のねじ締めユニットがそのラインナップに加わることになりました。ねじ締めユニットとしての認証は日



URロボットに当社のねじ締め技術を搭載できる「PD400URシリーズ」

系企業でははじめてのものとなります。

産業用ロボットだけでなく、協働ロボットへと販路拡大

迅速、正確、省力、無人化、あるいはコストダウンに貢献するのが産業用ロボットです。ハイスペックなゆえに、人とは一定の距離をとり安全柵を設ける必要があり、使いこなすのに事前に訓練を要します。それに対し、より人のそばで人の働きを補助するのが協働ロボットです。

近年、生産現場における人員不足、生産性の向上、トレーサビリティ確保などのニーズ、あるいは新型コロナウイルス対策のソーシャルディスタンス確保の必要などにより、自動化の動きが加速。安全柵の設置が不要で、導入しやすい協働ロボットの普及が進んでいます。ねじ締め分野においても、協働ロボットに搭載可能で、簡単な操作で扱える高性能なねじ締め機の要望が高まっていました。

このたび発売する「PD400URシリーズ」は、ユニバーサルロボット社「UR+」の認証を取得。ユニバーサルロボット専用ティーチペンダントから締付けトルクやドライバ回転速度などを直感的かつ容易に設定できるものです。また、発売以来好評をいただいている当社の高性能NXドライバSD600Tシリーズを標準搭載したことにより、ポ

イントごとに締付け設定を切り替え可能で高性能・高品質なねじ締めを実現しています。

これまで日東精工のねじ締め機、ねじ締めロボットは産業用途として、自動車メーカや家電メーカなどに多数採用され高い評価をいただいておりますが、今回のユニバーサルロボット社との協働で、同じ分野でこれまで導入されていないところへの

アプローチはもちろんですが、これまであまりお付き合いのなかった分野への販路拡大にもつなげてまいります。

また日東精工グループは国内、東南アジア、そして北米については現地法人などの拠点を設け実績を積んでいますが、ここにヨーロッパを加え、グローバル展開をより拡大してまいります。

■製品特徴

ねじフィーダよりねじをピックアップし、あらかじめ設定しておいた位置にねじを締付けます。



NXドライバT3搭載
ねじ締めツールユニット

SD600Tコントローラ

1. 小型軽量ねじ締めユニット

●ロボット動作に負担をかけず狭いところにもアクセス可能。様々なアプリケーションに対応

2. 高精度「NXドライバT3シリーズ/SD600Tコントローラ」を搭載

●高精度なねじ締めが可能な「NXドライバ」を標準搭載。締付けポイントごとにそれぞれ異なるトルク値、回転速度などが設定可能。16種類のプログラムが保存でき、様々な条件に対応したねじ締めが可能

3. URCap「NS SD600T」による簡単セットアップ・ねじ締め設定

●プラグインソフトURCap「NS SD600T」を新開発。導入時のセットアップがティーチペンダント上から簡単に実施可能。ねじ締めコントローラSD600Tに保存されたねじ締めトルク・ドライバ回転速度などのパラメータを、ティーチペンダントからの直感的な操作で設定または変更が可能。「簡易設定モード」と「詳細設定モード」を準備

「PD400URシリーズ」の動画はこちらからご覧いただけます



NITTOSEIKO'S SDGs

コロナ禍に負けないよう配慮しつつ、図書館イベントを盛り上げます！

障がい者アーティスト・奥村和之さんのステンドグラスランプの灯りで読む絵本「こんばんは バクです」が刊行され、この本と連動する形で綾部市図書館で展示イベントが開催されます。じつはこの絵本のなかにはさみ込みミニ冊子の印刷加工を、障がい者が従事する当社特例子会社の日東精工SWIMMYが担当しています。



「こんばんは バクです」(ワードスプリング刊)
この絵本にはさみ込まれる小冊子を開くとランプのことやバクのが学べ、自分でお絵描きできるようになっている

ミニ冊子はB4サイズを小さく8つ折りしたのですが、



開くと思わず微笑んでしまう仕掛けが施されています。8月5日から22日までコロナ対策をしたうえで開催予定ですので、お近くの方はぜひ足をお運びください。

☆

綾部市図書館では毎夏、福知山淑徳高等学校の生徒による人形劇が開催されますが、一度に人が集まることを避けるために冬休みに延期されました。日東精工では2015年から毎年、人財教育本『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）の印税を原資にポプラ社の児童書を購入し、綾部市図書館にプレゼントしています。毎年、人形劇終了後に子どもたちやボランティアとともに寄贈式を行っていましたが、こちらも冬に延期となりました。

作家・奥村和之さんと綾部市図書館とのご縁は、もともと日東精工とポプラ社がつなげたものです。例年とは違いますが、今年も夏休みに子どもが喜ぶ企画が進められることをうれしく思い、当社では人と人との〈つながり〉を大切に深めていきたいと考えています。

医療用照明器 発売から1周年

当社では昨年1月、医療機器専用製造工場を増築するとともに、医療機器製造業登録、第二種医療機器製造販売業許可を取得。



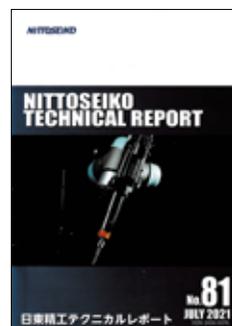
自然光に近くかつ高輝度の光を発する

昨年7月末から医療用照明器の製造および販売を開始しています。この医療用照明器は一般手術または診療に用いる光を発生させる装置。発売から丸1年が経ちましたが、自然光に近い光色でかつ高輝度の光を発することから、手術時の補助照明装置として高い評価を得ることができています。

当社ではファスナー、産機、制御システムの3事業に加え、医療分野を新しい柱ととらえています。本年2月に発表した「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」（溶けるねじ）の開発もその戦略上にあり、今後さらに医療分野へ注力してまいります。

「日東精工テクニカルレポート」を 発行しました

当社ではファスナー、産機、制御システム、メディカルの各事業部に技術開発者を配置。さらに各事業の枠組みにとらわれない「基礎研究」や「応用開発」を行う研究開発部も設けています。研究開発部は、既存事業製品のバージョンアップとは異なる新しい価値の創造を担い、次代に向けての技術開発に取り組む部門ですが、こうした技術開発活動とは別に各事業部の技術的連携を媒介する役割も担っています。その一環として毎年「日東精工テクニカルレポート」を発行しており、今夏7月には最新号となる通巻81号を発刊しました。当社技術や製品への理解を深めていただく一助になればと願っています。



技術開発の背景や秘話、製品紹介などを掲載。1963年の創刊号から「国立国会図書館」に献本し、だれもが閲覧できるようにしています

IR説明会をオンラインで開催

当社では自社事業や製品のことをしっかりご理解いただいたうえで投資をいただくために節目ごとにさまざまなIR説明会を開催しています。2021年6月22日は個人投資家向け説明会を実施。個人投資家向け説明会はこれまで東京・大阪をはじめ当社本社近くの京都府北部、福知山などで実施してきましたが、今回は新型コロナウイルス感染拡大を避けるためにオンラインにて実施、多くの方にご視聴いただきました。



パワーポイントを使いながら、新製品投入をはじめとする各事業の重点施策や、人材育成、地方創生、環境保護への取り組みなどを当社代表取締役社長材木正己が説明いたしました

イプロスオンライン展示会に出展

イプロスは、情報を探すユーザーと技術をPRしたい企業をつなぐBtoBデータベースサイトであり、



会員数は139万人に及びます（2020年3月時点）。閲覧者が膨大な製品・サービス・技術から、分野別に適切な情報を探し出せるようになっていきます。

このイプロスの常設展示場に当社も出展、ブースを設置し、ファスナー、産機、制御システム、メディカル各事業の新製品や技術情報を随時更新しています。動画視聴や資料のダウンロードができ、こちらからのお問い合わせも可能になっています。



オンライン展示会へはこちらから



起こったことの意味は変えられる

過

去に起こったことは変えられない。でも起こったことの意味なら変えられる。負でしかない出来事も、頑張りでその意味を、ダイヤモンドのように光らせることができる」

これは54歳を超えても現役Jリーガーの三浦知良（キングカズ）の言葉です。日経新聞連載コラムで、オリンピックやワールドカップ代表選考について語られたものです。陸上や水泳、レスリングなどの個人競技は数字（記録）がいいほう、対戦して勝ったほうが代表というように明確な基準が示しやすいですが、サッカーや野球などのチームスポーツは、監督（戦術）との相性などもあり、当落線上での悲喜（こも）ものドラマが生まれます。

もちろん、ずば抜けた力があれば文句なしに代表選出されるわけで「30年前の自分であればどんな監督でも自分は日本代表」選ばれたいでなく、

迷わず選ばれる対象」とストリートに言い切れるのが、キングカズのキングの由縁でしょう。しかし、そのカズ選手も、日本が初めて本選に出場したワールドカップ代表から最後の最後で外されています。ピークを過ぎていたとはいえ、日本を牽引してきた日本を代表するトップ選手であったにもかかわらずです。さぞやショックだったのかと思うと、本人は案外サバサバした印象で「代表に選ばれただけで満足するレベルの選手もいるが、単に選ばれるだけでは納得しない選手もいる」といい、「コーチや選手が気をつかう、忖度することになるとチームに悪影響をもたらすことになる」と、自分が置かれた状況を冷静に分析できていました。

カズ選手ほどの実績があれば、無理を通せば、選考漏れも、ひよっとしたら何とかなったかもしれない。しかし、そんなことをしても自分にも

チームのためにもなんの益ももたらしません。選ばれなかったという結果に気落ちして引退すれば、選考漏れはマイナスのまま終わったかもしれないが、しっかりと受け止めて精進し続けているからこそ、今も明確なビジョンをもって現役選手を続けられているのだと思います。日本代表から外れたことをプラスに働かせたのでしよう。

☆

長い人生、自分の力不足で良い結果が得られないことがあります。予期せぬ人事異動、あるいは集中豪雨など不測の

災害、まさに今のコロナ禍など、自分の力云々を超えた思わぬことで辛い状況に置かれることもあります。

もちろん起こってしまったことを元に戻すことはできません。起こってしまったことで、悲しい、苦しく辛い、悔しい思いをすることもあるでしょう。しかし、そこに踏みとどまって、それを引きずってはいけません。前を向き、一つひとつを糧にしてより良い方向に変えていく、そのように起こったことの意味を変えていきたいものです。

連載④④

あやべ ちよつと寄り道

田舎暮らしを楽しむ 「田楽学校」

「田楽」という言葉から、たとえば豆腐やこんにやくに味噌をつけて食べる料理を思い浮かべる方も多いでしょう。豊作を祈る田遊び（伝統芸能）も「田楽」ですが、当社が本社をおくあやべでは〈田舎生活を楽しむ〉を略して「田楽」と呼び「田楽研究所」ができています。小学校を一日借りきり、教室、体育館、運動場を使って「田楽」のための知恵や技を学べる「田楽学校」を2年前から開催。今年も秋に開催予定をしています。

